

我がまち九度山を愛する心をはぐくむ教育の推進

九度山町教育委員会（和歌山県）

1. はじめに

九度山町は、和歌山県北部に位置し、大台ヶ原を源とする紀ノ川の左岸に接している。「高野参詣道（町石道、黒河道）」「慈尊院」「丹生官省符神社」の世界遺産や戦国武将真田昌幸・幸村父子ゆかりの「真田庵」などの文化遺産と、「椎出の鬼舞」や「傘鉾」などの古くからの民俗芸能、玉川峡（県指定文化財）をはじめとする美しい自然に恵まれている。また、特産品である柿は「日本一の富有柿」として有名である。

本町では、平成16年に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道の一つ「高野山町石道」が世界遺産登録されて令和6年7月7日で満20周年を迎えることになります。大人から子どもたちまで生涯学習として今後、世界遺産をどう活用するのか目が離せないところです。



▲慈尊院

椎出鬼舞▼



2. 教育目標

●九度山町における学校教育目標

豊かな人格の形成を図ることを主眼として、人間尊重を基盤とした心のふれあう充実した教育を通して「生きる力」をはぐくみ、主体的に生きていく元気な児童・生徒を育てる。

- (1) 自己実現を目指し自立する子どもの育成
- (2) 人を思いやる心豊かな子どもの育成と自ら体を鍛える子どもの育成
- (3) 確かな学力と深い学びのできる子どもの育成
- (4) 共生と公共の精神に富み、社会の形成に主体的に参画する子どもの育成
- (5) ふるさと学習を通して地域の文化や伝統を重んじ、国際社会に貢献する子どもの育成

3. 教育委員会・学校での取組

●中学校における探求的な学習

中学校1年生はこれまで小学校で学習した地域の文化財や歴史などさらに深く探求することにより地域の良さを見つける課題を克服する力を養います。生徒は、自らが役場職員や文化財の管理者を訪れて研鑽を深めています。学習したことをまとめ在校生に発表をしています。



●中学校における地域学習

地域で生活する社会人として、中学生である自分たちができるを考え、主体的な活動を通して、社会の一員であることに気づく子どもたちを育てている。各々の課題に応じた質問を考え、関係の施設を訪れている。



●小学校の取組～高野紙の紙すき体験

例年、6年生が町内にある「紀州高野紙伝承
しゅうさん
体験資料館紙遊苑」で、各自の卒業証書となる手すき和紙作りに取り組んでいる。

原料のコウゾという木に触れ、身近にあるもので、丈夫な紙を作ることができる製法を学習します。



4. おわりに

子どもたちは、身近に世界遺産や文化遺産が豊富にあることを感じたり、地域の産業への関心をもち、そのよさや課題の解決に向けた深い学びにつながっているといえる。インターネットや書籍を通じて学習したことをもとに、体験的な活動を大切にしながら、発達段階に応じて外部の専門家に的確な質問をする意欲的な姿勢もみられる。この機会をもとにさらに九度山町では、子どもたちに地域を愛する気持ちを育てるだけでなく、自分たちにできることは何かを考える力と行動力を育んでいきたい。

●九度山町の柿の収穫体験

特産である九度山町の柿について学びを深め小学校では町内の選果場もおとずれ食育につなげるなど系統的な学びにもつなげている。



●地域学習教室（世界遺産 高野地域）

九度山町の慈尊院と高野町の金剛峯寺のつながりを学習し、フィールドワークにつなげました。自分たち地域にある世界遺産を次世代につなげるため、世界遺産を保護する活動があることを知るきっかけとなりました。

